

DV被害者支援を始めて（全五回）

第二回「DV被害者の実態」

NPO法人女性・人権支援センター
ステップ理事長 栗原 加代美

— 前回は加害者更生プログラムを立ち上げた経緯をお話ししました。続けて今回は、DV被害者の実態をお伝えしたいと思います。—

シエルトーの現場から

まず、シエルトーについて述べたいと思います。シエルトーとはDV被害者をかくまい、保護する場所です。

神様はステップに、中期シエルトーを2001年から2015年まで15年間、開設することを許されました。スタッフは10名おり、クリスマスは5名おりました。その間に人生のどん底に生きている150名ほどの母親、0歳児から中学生までの50名ほどの子どもたちと、神様は出会いの機会を与えてくださいました。

最初は一人一人のために神様の介入を祈りながら関わっていました。彼らを励まし、支援するためにには私に何ができるのだろうか・・・と。

しかし、神様は私に、大きな誤解をしていたことに気づきをくださいました。私の前にいる彼らは、全てを捨てて逃げてきたにもかかわらず、必死に元気を回復しようともがいていました。そのもがきから励ましやパワーをいただいたのは私でした。幸せな状況の方が元気よく生きられるのは当たり前、どん底からはいあがるうとする彼らの涙ぐましい努力は力強く、かえって私が支えられました。支えてあげようなどと、なんと私は同情と上から目線の傲慢な姿勢だったのかと悔い改めました。

6ヶ月の間に、被害者の離婚に向けて離婚調停、アパート設定、就労支援、自立支援を行いました。退去後のアパート設定は、被害者の多くが保証人のいない生活保護受給者のため、困難をきわめておりました。そのような困難な時、神様は1人の警察官を通して救いの手を述べてくださいました。彼が自分の貸しアパートをシエルトー形式で、鍋、釜、布団等すべてのものを備えて、敷

金なし、保証人なし、低費用で貸してくださる申し出をしてくれました。まさに「主の山に備えあり」でした。

また、ステップのシエルトーは、アパートを市民から借りていましたが、築40年と古く、台所、トイレ、風呂が汚く、利用者には申し訳なく思っていました。そんな時、市役所に1人の市民から多額の寄付があり、その寄付金でステップの汚い場所が改装されました。神様は必要を満たしてくださる方であることを知る機会が増していき、さらにこの働きへの確信を増し、前に進む勇気をいただきました。

シエルトーはアパート形式で各部屋にトイレ、台所がついており、ステップには5部屋あり、5家族収容できました。学校にも職場にも買い物にも通うことができ、被害者は元気をとりもどしていきました。拘束されずに自由に生活できることが幸せの条件の一つであると、彼らを見ていて思いました。夫や父親から愛されない辛さを経験した彼らに、神様の愛を知ってほしいと、一人一人のために祈られる日々が続きました。神様は祈りに答えて、クリスマスになる方々を起こしてくださいました。祈りの答えをいただくことはなんと大きな喜びでしょう。

加害者はなぜ、パートナーを傷つけるのか？

DV加害者はパートナーを支配するために、下記のような行為をします。DVは力による日常的な支配関係であり、これらが支配するための道具です。なぜ、このような悲しい行為をするのか考えさせられます。イエスさまの十字架上の言葉を思い出します。

「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」

ルカ23章34節

加害者は自分のしてきたことをほとんどわかっていません。イエス様のおっしゃるとおりです。彼らは両親、社会から知らない間に悪いモデルを学んできたように思います。彼らも社会からの被害者なのではないでしょうか。愛とは何かを神様から学ぶ機会を子ども時代から持つことが必要だと考えさせられます。



DVの行為

- 身体的暴力 叩く、蹴る、首をしめる、凶器を使って脅す：
- 言葉の暴力 どなる、言動、人格、価値観を否定する、欠点をあげつらう：
- 精神的暴力 無視する、不機嫌になる、話をしない、嘘をつく、物を投げる、ドアをバタンと閉める、相談なしに物事を決める：
- 性的暴力 パートナーの同意なしに性行為を行う、避妊に協力しない、性行為を断ると怒る、浮気をする：
- 経済的暴力 働かせる、働かせない、十分な家計費をわたさない、家計の管理を独占する
- 拘束 外出や友人への電話を許さない、携帯のメールをチェックする：

今、これらの行為をリストアップしていて気持ち暗く沈みます。行為を受けている被害者の気持ちを考えてと神様に被害者を癒してほしい、加害者を変えてほしいと祈られます。そのために私を用いてくださいと・・・。

被害者の特徴

上記のような対応をパートナーからされた既婚者の数は、3人に1人、男性既婚者も5人に1人の割合で傷ついています。その中では左のような症状があらわれます。なんとその中の9人に1人は命の危険を感じています。

うつ病を発症、心療内科に通院して薬を服用、男性恐怖症、自殺願望、記憶障害、昼夜逆転、食欲がない、味覚がない、眠れない、仕事ができなくなる、マイナス思考、自分で決断できない、考えることができない、笑えない、喜怒哀楽がない、自信がない、自傷行為等です。

これらの症状は人間らしく生きられなくなっていることを意味しているように思います。人は言葉、人格、価値観等をパートナーから言葉や身体的暴力で否定される時に、恐怖がわき、パートナーの思い通りに生きていくようになり、上記のような症状が起きてきます。その中で被害者の対応は、自分がどうしたいかより、パートナーが怒らないかが基準になっていきます。怒られたことは言わなくなり、自分の考えは、9割は言わなくなります。さらに二人の間の問題はすべて自分の責任であるような気がして、ますますパートナーの言うままに行動し、奴隷化していきます。こんなひどい自分を教育し、叱ってくれる人は他にはい